

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。この用紙1枚に記入し、PDFファイルに変換した後、ホームページに貼り付けてください。

学校名	北海道教育大学旭川校	個人名	下田 悠介	作品名	木光-Mokkou-
-----	------------	-----	-------	-----	------------

1. 本作品を製作した動機・目的

私の所属する専攻で毎年行われている「木工展」への出展を機に製作した。4年間で修練した木材加工の技術を余すことなく活用し、最後の出展で形にすることを目的とした。また、来春から始まる社会人生活に向けて必要な家具が欲しかったことも動機の一つである。



2. 利用方法

本作品はセンターテーブルである。リビングにおいてテレビとソファの間に設置して使用する。リモコンや雑貨などの品を収納するために引出しを付けた。



3. 作品や製作過程における工夫

《設計》

私は身長が高いため、ソファに座って食事をする際に背中を丸めて食べることのないように一般的なセンターテーブルよりも高さを高く（床から天板まで600mm）設計した。

《材料》

天板…ニレ材

脚材、幕板、引出し化粧板…ナラ材

引出し…キリ集成材（底板はベニヤ板）

《製作工法》

- ・天板…オービタルジグソーで窓抜きし、ビスケット接合で施した。木枠を木ねじで固定し、ガラス板をはめこんだ。
- ・脚材と幕板…帯鋸や角鋸盤を利用し、ほぞ接合を行った。妻手と脚材の接合はほぞを二つにすることで揺れに強くした。
- ・天板と脚部…ダボ接合



《製作における工夫》

一般的なテーブルの構造に引出しが入る空間ができるよう設計した。また箱型の形状を実現し強度を増すことができた。

《作品の工夫》

天板を窓抜きし、ガラスをはめ込んだ。引出しの中には光源を置き、両サイドの引出しの光源は上向きに設置されガラスをライトアップし、中央の引出しの光源は横向きに設置することで中に入れたものをライトアップしている。木と光の美しい調和を実現し、ここから作品名のタイトルを創造した。



4. 最後に

大学生活最後の集大成としての作品を製作し、ものづくりの面白さや奥深さを改めて味わうことができた。大量生産大量消費の現代において自分でものづくりをすることは大切であると思う。将来自分の子供に「ものを大切に作る心が育ってほしい」という想いをこめて家具を製作することが私の夢の一つである。

